

環境配慮型紙製ボトルを活用した持続可能なワイン造りの実証を開始 ～富士特殊紙業株式会社と山梨大学ワイン科学研究センターによる共同検証～

富士特殊紙業株式会社(本社 愛知県瀬戸市、社長 杉山真一郎)は、山梨大学ワイン科学研究センター(センター長 鈴木俊二氏)、同学工学部附属ものづくり教育実践センター(センター長 清水毅氏)と共同にて、同学が取り組んでいる「シン・山梨大学ワインプロジェクト」のワイン用容器として、紙とプラスチックパウチを組み合わせた分別廃棄可能な環境対応型紙製ボトル「ēfbottle®(エフボトル)」の一部試用を開始しました(※)。

本取り組みにおいて、持続可能なワインづくりへの新たなアプローチの一環としてēfbottle®に世界で初めてワインの実充填を行い、環境負荷低減が期待される新しいワイン容器としての実用性や有効性を検証し、脱炭素社会及び循環型社会の実現に向けた開発、改善に継続的に取り組んでまいります。

※令和7年産の果実酒について甲州種およびマスカットベリー-A種750ml各30本の充填を実施し(非売品)従来のガラス製ボトルとの比較を行う

シン・山梨大学ワインプロジェクトについて

山梨大学ワイン科学研究センターでは「地域から地球規模の社会課題に取り組み、100年後も持続可能なブドウ栽培・ワイン造りを山梨大学から提案する」というビジョンのもと、世界的ニーズに対応したワイン造りや気候変動に適応した持続可能なブドウ栽培の実現に取り組んでいます。

その具体的な取り組みとして、ブドウ栽培からワイン醸造、瓶詰め、エチケット(ラベル)デザイン、販売までを一貫して山梨大学で実施する「シン・山梨大学ワインプロジェクト」を令和5年度より開始しました。

ēfbottle®について

ēfbottle®は富士特殊紙業株式会社他、複数企業が参画し開発を行った、紙とプラスチック製パウチを組み合わせることで従来のガラス瓶やPETボトルよりも環境負荷を低減させるとともに生活者にとって使いやすく・親しみやすい、新しいコンセプトの液体用ボトルです。

このボトルは、外装に使用環境を考慮した耐水紙を使用し、内側に、長期保存が可能な「プラスチック製口栓付きパウチ」を備えた構造となっています。外側の紙と内側のプラスチック素材を一体化しないことで、使用後の分別廃棄を容易にし、資源循環を容易にすることを可能としました。紙製でありながらガラス瓶のような曲線的な形状を実現するとともに、ボトル全面に印刷できることから、ガラス瓶では表現できないデザイン性や、紙パックにはない高い意匠性も兼ね備えています。



充填に使用したēfbottle®



充填の様子(山梨大学ワイン科学研究センター内)

問い合わせ先

ēfbottle®または本記事に関するお問い合わせ

富士特殊紙業株式会社 生産本部 スタートアップF 担当 鈴木・日比野
E-mail: startup-F@fujitoku.net
TEL:0561-86-8511(代) 0561-86-8523(直通)

シン・山梨大学ワインプロジェクトに関するお問い合わせ

山梨大学 ワイン科学研究センター 鈴木
E-mail: suzukis@yamanashi.ac.jp TEL:055-220-8394

山梨大学におけるēfbottle® ワイン製造または充填工程に関するお問い合わせ

山梨大学 工学部附属ものづくり教育実践センター
ワイン科学研究センター担当 杉山・石原
E-mail: tsukuri@yamanashi.ac.jp TEL:055-220-8622

山梨大学広報に関するお問い合わせ

山梨大学 総務企画部総務課広報・渉外室
E-mail: koho@yamanashi.ac.jp TEL:055-220-8005